



2023 年度法学検定試験合格体験談

ベーシック〈基礎〉コース

将来の自分探しに

今回私が法学検定試験を受験した理由は、今までの既習範囲を総復習するきっかけとしたかったからです。1年次の頃に履修した憲法や、民法、特に物権の部分が当時満足に勉強できておらず、2年次に上がる段階で、既習部分の復習を通して基本的な事項をおさえ、理解を深めたいという意識をもち始めました。法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースの受験を通して基礎科目を全体的に復習しつつ、苦手分野の確認と見直しをするべく、受験をするに至りました。

私は、法学検定試験に向けての勉強に際し、問題集を解き、解説の部分を読みきることに専念しました。問題集を何度も解くうちに内容を掴むというやり方ではなく、1周目で解説を読み込みながら深い理解を求めて進めるというやり方が私には合っているので、後者の方法で勉強していきました。一般的に後者のやり方は試験向きではないことはよくわかっています。しかし、今回の受験目的が全体の復習であったため、「受かるための勉強」ではなく、「学問を習得するための勉強」を常に意識しながら問題に取り組んでいました。また、問題集を進めていく中で理解に苦むところや確認したいところがあるたびに、教科書や参考書を開き、該当箇所を参照しながら苦手分野の重点的な復習をしました。

以上のような勉強の仕方は膨大な時間を要します。このことは取り組む前からわかっていたので、1カ月ほど前から「1日に最低 10 問は進める」という習慣をつけることで、少しずつ問題集を進めることができました。全体を解き終わったのは試験の数日前でしたが、1周目に深く勉強していたので、2周3周するときには比較的早く、かつ、ミスも少なくすることができました。

法律関係職に就きたいというのが現時点での私の希望です。その職種が法曹であるのか、士業であるのか、その内容までは具体的に決まっていません。ただ、今楽しみながら勉強できている法学を将来の仕事に生かしたいという気持ちが強くあります。これからさまざまな科目を勉強していくなかで、自分が特にやりたいこと、好きなことを探していくつもりです。来年度には、宅建試験と行政書士試験の受験を決めています。資格試験の勉強を通して法学の体系的な理解をしながら、自分の特に好きな分野を見つけ、勉強を通して将来私が就きたい仕事も探していけたらと考えております。

これから法学検定に挑戦する方への励ましとなれば幸いです。

(ベーシック〈基礎〉コース・最優秀賞・井村 光さん 20 歳・愛知県)

知識定着化の一環として

私が通っている大学では、法学検定が単位認定の対象になっています。このことがきっかけで法学検定試験の存在を知りました。ベーシック(基礎)コースは、初学者がまずはおさえておくべき基礎的なレベルとのことでしたが、出題範囲を見た際、未学習の分野からも出題されると知り、大学1年の段階で受験することには迷いがありました。しかし、夏休み前に行われた法学検定試験のガイダンスでの「独学でも合格できる」「公式問題集を2～3周繰り返し解けば十分合格のレベルに達する」という言葉に背中を押され、受験を決めました。本番の試験問題の6～7割は問題集からの出題ですが、問題集の解答の暗記に終始しないように、理解のための十分な時間をとりたいと考え、夏休みから勉強を始めました。夏休み後は大学の勉強もあり、法学検定試験の勉強に多くの時間を費やすことが難しかったため、夏休みから勉強を始めたことで余裕をもって学習を進めることができましたと思います。

ベーシック(基礎)コースは、法学入門、憲法、民法、刑法の4科目が出題されますが、私は公式問題集を毎日1科目につき3～5問ずつ解くようにしていました。1周目は、特に民法と刑法は習っていないことの方が多く、問題文や解説を見ても、そもそも用語の意味がわからないこともあり、半分以上間違えていたと思います。わからないことはインターネットで調べたり、法律辞典や六法を引いたりして、用語の意味や条文、判例を確認し、理解に努めました。また、解説を読むだけでなく、自分なりに付箋に簡潔にまとめるなど、手を動かすことで知識の定着を図りました。公式問題集巻末のStudy Plannerの達成シートを印刷して周ごとに用意し、正解不正解を色分けして記録していたので、試験直前はそれらを見て何度も間違えていた問題や理解に不安がある問題に付箋を貼り、重点的に学習しました。

試験本番では、初見の問題は、大学の講義や問題集での学習の際に自分で調べたことなどを回想しながら解答することを意識しましたが、適切に対応することができた問題もあれば、虚を衝かれ、自分の知識不足を痛感させられた問題もあり、自分の学習到達度や弱点を確認することができました。そして、法学検定試験は、授業の予習の良い機会にもなったと感じています。法学検定試験の受験後、大学で新たに法律を学んだ際、法学検定試験のために学習していたことが思い出され、理解がスムーズに進みました。

法学検定試験の学習を通して身につけた知識を土台に、今後も公務員試験など各種試験に向けて勉学に励みたいと思います。

(ベーシック(基礎)コース・優秀賞・春名 香弘子さん 18歳・新潟県)

法学初学者の足掛かりに

私は、熊本大学法学部の1年生で、法学検定試験のベーシック(基礎)コースを受験しました。私は同校の法曹コースに所属しており、そのコース担当の先生にこの検定試験の存在を教えていただいたことが、受験するに至った経緯です。

熊本大学では、学部1年生段階で前期に憲法、法学入門(法哲学)を履修し、その後、後期に民法総則、刑法総論、家族法を履修するという流れになっています。はじめてこの試験の勉強をはじめた9月頃の段階では、ほとんどの科目の知識がゼロに等しく、問題の難解さに戸惑いました。しかし、法学検定試験の問題集でわからなかった部分を基本書で確認するという一連のサイクルを積み重ねることで、少しずつ知識が定着していることを感じるできるようになりました。

また法学検定試験の問題集は、その問題数の豊富さだけでなく、1つひとつの問題に対する解説の充実ぶりも大きな魅力です。私の場合、最初は解説を読んでもすべてを理解することが難しかったため、基本書と組み合わせ読み進めていきました。1回目では理解できなかったものも、2回、3回と解き直し、解説を読むことで、深い知識と確固たる理解を得ることができました。加えて、解説の中には判例も掲載されているため、1つの問題だけでなく、それに付随してさまざまな知識を得ることができました。

法学検定試験は、私のような法学初学者でも受けることができることはもちろんのこと、試験勉強は大学の講義の予習ないし復習としても行うことができるため、どんな人にもおすすめです。

私自身も、来年度スタンダード(中級)コースを受験するつもりであり、さらなる法学知識の研鑽に努めたいと思っています。

(ベーシック(基礎)コース・優秀賞・森健人さん 20歳・熊本大学法学部)

法学の基礎知識と思考法が身につく

私が法学検定試験を受験した理由は、大学の編入試験に向けて、自身の法律知識の理解度を深めたかったからです。法学検定試験のベーシック〈基礎〉コースでは、法学入門と実定法科目（憲法・民法・刑法）の基礎に関する問題が出題されます。中には、条文知識や判例だけでは解けない論理的な問題もあるため、基礎知識だけでなく、論述問題で問われる論理的な思考力も養われたと感じています。

法学検定試験に向けての勉強は9月上旬頃から始めました。具体的な勉強方法としては、まず、問題集を解いて間違えた問題には付箋を貼りました。その際、不正解の問題には赤、正解したけど曖昧な問題には黄色というように付箋を色分けすることで、自身の理解が十分でない箇所を明確にしました。次に、間違えた問題の解説の内容をノートにまとめました。まとめる際には、なぜその結論になるのかという理論の道筋を意識しました。そうすることで、内容の暗記ではなく理解につなげることができます。その後は、問題集を何度も繰り返し解き、何故その答えになるのかを意識しながら取り組みました。それにより、試験本番の初見の問題に対しても、論理的に考えて正解にたどり着くことができました。

今後の目標は、まずは、編入試験の合格です。今回の法学検定試験で身につけた知識や法律学習の成果を編入試験にぶつけたいと思います。そして、編入学先でスタンダード〈中級〉コースやアドバンスト〈上級〉コースにも挑戦したいと考えています。

（ベーシック〈基礎〉コース・グループ賞・細川 嘉伸さん・福岡カレッジ・オブ・ビジネス大学編入科法学コース）

スタンダード〈中級〉コース

弁護士という夢に向かって

私は都内にある法律の専門学校に通う学生です。今回、私が法学検定スタンダード〈中級〉コースを受験した動機ですが、将来、法テラスのスタッフ弁護士として、一人ひとりの人権と向き合い、問題解決に尽力する弁護士になるという夢があります。そのため、今ある自分自身の法律知識を法学検定試験を通して再確認し、法律に対する理解力をさらに向上させるために受験させていただきました。その結果として、このような表彰をしていただいたことをとても嬉しく思います。

私の勉強方法は、とにかく一つひとつの条文、論点についてコツコツと向き合っていくことです。具体的には本試験の公式問題集を有効活用し、問題集で気になったことや、各論点を六法や参考書、解説等で調べ、大切だと思ったところにはラインマーカーを引いたり、メモや付箋を貼るなどして、とにかく回数をこなし、理解を伴ったうえで知識が定着するように心がけて勉強しました。

法律の勉強は1日や1週間、1年といった短期間で身につくものではありません。だからこそ、何百、何千とある条文に対して、一つずつ諦めずにコツコツと向き合い続けていくことが一番大切です。時には結果が出ずに、勉強が嫌になって逃げ出したくなる時もあるかと思います。そういう時こそ初心に戻り、自分の夢を思い出して、もう一踏ん張りしてみてください。法律を勉強する者、法曹を志す者にとって、どんな状況においても諦めないということはきっと一番大切なことだと思います。

本試験を通して、私は、法律知識の増加はもちろん、法律を学ぶ楽しさも改めて実感することができ、自分自身の夢に大きく前進することができました。今後も私は夢への挑戦を続けます。そして、今回の成功体験を糧にさらなる高みを目指し、夢を実現させます。このたびは栄えある賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。

（スタンダード〈中級〉コース・優秀賞・外所 功太郎さん 20歳・千葉県）

併願受験で excellent 合格

昨年の7月、「法学検定試験は、どなたでも受験することができます。受験資格は一切問いません」という受験要項の記載に勇気をもらい、受験料のセット割引に心を奪われて、2つのコースを受験してみようと思い立ちました。

法律の学習が必要な資格試験をいくつか受験したことはありますが、法学部出身ではなく、試験対策としてテキストや過去問集等でその時ごとに勉強してきたにすぎないので、一度基礎から法律を学んでみたいという気持ちがありました。法学検定試験のどのコースを受験するのが適当なのかは見当が付きませんでしたが、思い切って、スタンダード〈中級〉コースとアドバンスト〈上級〉コースのセットを申し込みました。

まずは、「スタンダード〈中級〉コース」の法学検定試験公式問題集を購入し、勉強開始。難しいけれど、解説が分かりやすく興味深く、読むのが楽しくて、法律を勉強しているというワクワク感に心が躍りました。その後、「ベーシック〈基礎〉コース」の問題集で基礎を学習し、最後に「アドバンスト〈上級〉コース」に取り組みました。

勉強方法は単純で、繰り返し問題集を解き、解説を読むこと。そんなに大した努力はせずに合格したような気になっていましたが、体験談を書くにあたって久しぶりに問題集を開いてみると、3冊とも無数の付箋とマーカーと書き込みがされ、相当勉強したに違いないカラフルな跡がありました。「夢中は努力に勝る」という言葉がありますが、その通り、法律の勉強に夢中になっていたのだと思います。

その甲斐があって、スタンダード〈中級〉コース、アドバンスト〈上級〉コース共に excellent 合格することができ、また、スタンダード〈中級〉コースでは優秀賞をいただきましたことを大変嬉しく光栄に思います。

今後も、夢中な気持ちが続く限り、法律の勉強を続けていきたいと思っています。特に、アドバンストコースの法学基礎論の分野は勉強不足ですので、参考文献を読んで学習を深め、またいつかアドバンストコースに再挑戦してみたいです。

(スタンダード〈中級〉コース・優秀賞・毛阪由紀さん 61歳・大阪府)

将来に生かせる法律の勉強を

私が在籍する大学では毎年、法学検定試験の案内があり、興味本位で昨年はベーシックコースを受験しました。今回スタンダードコースを受験したきっかけは、将来法律に携わる仕事に就きたいと考え、現段階で自分に法律の知識がどの程度身についているのかを知りたいと思ったからです。また、今まで習った法律の復習をするとともに、自分の苦手な分野を知るために法学検定試験の勉強をすることにしました。

勉強方法に関しては、公式問題集を用いて勉強をしました。1日30ページを目標に繰り返し問題を解きました。解説を読んでも理解できないところは自分の持っている基本書、大学のレジュメを用いて勉強しました。民法については大学で習ったことのない部分があり、解説を繰り返し読んで理解しました。また、民法と刑法は基本的な知識が欠如していると感じたため、民法は法律の趣旨を理解すること、刑法は構成要件該当性に対する判例の立場を理解することに重点をおいて勉強をしました。

今回の受験勉強を通して、自分の苦手な分野を知るとともに、特に民法に興味を持ちました。将来、法律関係の資格をとり、その資格をもって仕事で生かせるように毎日法律の勉強に勤めたいと思います。

(スタンダード〈中級〉コース・団体賞・瀬古果蓮さん 20歳・南山大学)

法律学習の復習として

私は大学2年生です。憲法、民法、刑法とこの試験で受けるために必須となる科目をすべて学習し、復習として法学検定試験を受けることにしました。実際に学習を進めると、基本書を読んで復習するのとは違った復習の仕方ことができました。私は今まで法律を勉強する際に問題を解くというアウトプットをほとんどしてこなかったため、最初は公式問題集の問題のほとんどがわかりませんでした。判例の結論はわかるのに細かい内容を覚えていない、学校のテストでは範囲外だった歴史の範囲を覚えていないなど自分の知識にむらがあり丁寧な勉強ができていなかったということに気づくことができました。また、大学では法学検定試験合格で単位取得できる講義があり、多くの友達を受けるといった状況であったためみんなと一緒に受けようという気持ちもありました。

勉強方法としては、テキストをまず一周、まじめには解かずになんともわからない問題に印をつけておき、2周目で印のあるところの解説を読み、それでもわからないところは教科書や判例集を読む、テスト前にほとんど理解した状態でもう一周解くというように進めました。1週目にわからないところが多くて嫌になりそうだったのではじめからきっちり解くのではなくこの方法にしました。

今回試験勉強をして、私はもう少し丁寧に法律の勉強をするべきだということがわかりました。来年、手続法を習った後にも今回使った問題集を使ってアウトプットもしつつ復習しようと思います。

(スタンダード〈中級〉コース・団体賞・竹内緋梨さん・南山大学2年)

法律の網羅的な学習のために

法学部への進学を決めた頃の私は、法律を学ぶということは、条文を覚え、法律を使って答えを出すだけだと考えていました。しかし、実際に法律を2年間学んで感じたことは、「法」という性質上、法の解釈において常に正解があるというわけではないということです。たとえば、わが国は憲法制定権の主体(=主権者)を変更することはできないという見解に立ちつつ、天皇主権の明治憲法から、国民主権の日本国憲法に改正されたことはどのような法の解釈があったのかという憲法上の矛盾が存在します。この矛盾をいかに説明するのかについて、主なもので言えば八月革命説など実に多様な考え方が存在します。このように法学は、条文や判例だけを覚えていけばいいという暗記科目ではなく、問いに対して、なぜ判例はこのような見解に立つのか、自分が納得できる見解はどれか、ときには多数説や判例と対立するような意見でも、どのように筋道立てて相手を説得させることができるか等の思考力が試される学問であると感じました。そのための前提として法知識を知っておくことが必要です。私はこれまで学習した知識の復習と、授業で学びきれなかった範囲を網羅的に学習することができると思い法学検定試験を受験しようと思いました。

実際に、法学検定試験の勉強は、条文の読み方等の基本知識から、最高裁がどのような考え方のもと判例を示したのかというプロセスまで考えさせられます。ただ暗記するだけでなく、該当部分の判例文を実際に読むことや、教科書、教授のレジュメをもう一度じっくり読む機会になり、授業の時には気がつかなかった発見をすることもできました。

法学検定試験を受ける理由は人それぞれですが、法律を学習している人はただ覚えればいだけでないことはわかっていると思います。自分が興味関心を持って深く法と接する機会を増やしていくことが法学者への道のりだと思います。

(スタンダード〈中級〉コース・団体賞・末松晃さん・熊本大学法学部法学科2年)

サークルの仲間との勉強を通して

私は香川大学法学部の2回生で、今回はじめて法学検定試験にグループ受験で参加しベーシック〈基礎〉コースとスタンダード〈中級〉コースを受験しました。本試験を知ったのは本学部で授業外の単位取得として法学検定試験合格で単位取得できることを発見したからです。試験に興味のある友人たちとともに申し込みました。

私は試験日の約半年前から法学検定試験公式問題集で勉強をはじめました。大学の休み時間や通学時間の隙間時間も含めて少しずつ問題集の内容を把握していきました。内容は授業で学んだことの復習やこれから学ぶことの予習もあり、大学の講義と並行して勉強することができました。

今回、グループとして受験したため、サークルの部室では同じ受験者である友人たちと問題の復習や知識の補強を行いました。また、積極的に友人と勉強会を開き、互いにサポートしながら休日なども和気あいあいと勉強し、受験日までモチベーションと向上心を保ったままで学習できました。また、後輩たちも同様の勉強会を開き、同級生同士の関係を高めるとともに、我々上回生への質問などを通して上下間でも関係の構築につながりました。

今回の受験で、法学のさらなる知識と理解、そしてサークル内でのよい関係の構築を得ることができました。今回得たものを活用しながら、今後の大学生活を豊かなものにしていきつつ、さらなる向上心をもって勉強に取り組んでいこうと思っています。

(スタンダード〈中級〉コース・グループ賞・赤澤悠真さん・香川大学法学研究会)

アドバンスト〈上級〉コース

法律の学習をもう一度

私は定年退職して間もなく4年になります。毎日に不満があるわけではありませんが、何か達成感の感じられるようなこととしてみたいと思うようになりました。

事情があって、勤めながら法律の勉強をしていた時期がありました。法学部出身ではなく他学部出身ですが、法学の面白さの一端に触れることができたような気がして、「学部の選択を誤ったのかもしれない」などと思ったりしました。昔が懐かしく思い出され、法学への学習意欲が蘇ってきました。昔と比べて今は時間があります。しかし、勉強するとなると、やはり何か励みや目標が欲しくなります。

まず、思い浮かべたのが法学検定試験の受験です。法学検定試験は学習レベルに応じた良問が揃っている、という話をどこかで聞いたことがあったからです。過去問を見たところ、難しく躊躇しましたが、目標は少し高めに設定した方がいい、と思い直しアドバンスト〈上級〉コースにチャレンジすることにしました。

いざ始めてみると、年齢から来る記憶力や集中力の減退は想像以上で苦労しましたし、学習の方法も非効率的だったと思います。テキストを読む、該当箇所の過去問を解いて理解度の確認と知識の定着を図る、というのが一般的な学習方法だと思いますが、思うように計画が捗らないにもかかわらず、背伸びをして、興味や関心のおもむくままに中上級者向けのテキストに手を伸ばして迷路に迷い込んで抜け出せなくなることも度々ありました。試験対策としては回り道をしてしまったと感じています。

いくつになっても褒めていただけるのはうれしいことです。生きがいや自信にもなります。受験させていただいて本当に良かったと思っています。いまは関係者の皆様への感謝の念でいっぱいです。本当にありがとうございました。

(アドバンスト〈上級〉コース・最優秀賞・北村 一夫 さん 60代・京都府)